

事務事業評価の評価結果について（平成28年度の事業に対する評価）

短期大学事務局

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成28年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成29年度以降の事業の方向性	所見
大学総務課	短期大学管理運営事業	非常勤講師報酬、校舎棟等の各施設の維持経費、学内の警備等の管理委託経費等により、短期大学の効率的な管理運営を図ります。	卒業生アンケートにおける「総合評価」	毎年、卒業生を対象に満足度調査を実施しており、その「総合評価」を短期大学の管理運営を測る指標とします。	90%	87.0%		実績値は昨年度比で微増であり、年々目標値に近づいています。	4	予算の計画的かつ効率的な執行に努め、大学の管理運営を行うことができました。 また、学生の就職支援についても、就職率の向上や早期の内定など、学生の満足度が向上しました。	拡充・充実	少子化がさらに進み、大学を取り巻く環境がますます厳しさを増している現状において、教育環境の充実にとどまらず、就職支援等、いわゆる出口管理の強化や地方創生への貢献など、短期大学に求められるものが大きくなっており、大学運営の効率化を進めつつ、これまで以上に短期大学の魅力向上に取り組む必要があります。
大学総務課	図書館管理運営事業	図書館情報システム機器と学内資料を活用した市民や学生への情報提供を図り、三重短期大学附属図書館の効果的な管理運営を行います。	利用者数	地域住民を含む利用対象者を900人と想定し、平均して月2.8回利用した場合の利用者数30,000人を目標とします。 1人当たりの月間利用回数を、平成27年度に2.85回、平成29年度に2.9回に向上することを目標とします。	30,000人	21,783人	図書館利用者の情報リテラシーの向上や人的サービスの更なる促進のため時代に合った職員の育成を図ります。 また、教育・研究内容との連携を図り、併せて施設環境の向上を検討します。	目標を達成できず、前年度を下回りましたが、1人当たりの貸出冊数は増加しました。 また、学生及び市民に向けた情報発信に取り組みました。	3	利用者数は前年度から減少し、目標を達成できませんでした。 今後は、職員の対応等、提供しているサービスの向上とともに、利用者の来館機会を増やすようサービス内容について改善を図ります。 また、地域への情報発信を促進し、利用者の増加や満足度のさらなる向上を図ります。	現状維持	図書館情報システムと学内資料を活用した市民や学生への情報提供を図り、三重短期大学附属図書館として効果的な管理運営を行えるよう事務事業を展開していきます。 また、資料の提供をはじめ、資料を活用する講座を開催するなどして利用機会の創出に努めます。 さらに、地域への情報発信を促進し、利用者の増加に取り組みます。
大学総務課	地域貢献推進事業	教育研究の成果の地域社会への還元等の地域貢献を目的とし、平成20年4月に設置した地域連携センターを中心に、高大連携や市政との連携等の地域連携事業を実施します。 また、地域住民の生涯学習意欲が盛んになるなか、様々な形態で公開講座を開講し教育研究の成果を還元することにより、住民の生涯学習ニーズに応えるとともに、地域社会を支える人材の育成に努めることを目的とします。	相互協力協定締結数（累計）	産学連携、高大連携については、相互協力協定を締結して具体事業を進めているところであり、地域連携の成果及び形として相互協力協定数を指標とします。	7件	6件		高大連携協定締結校との連携事業の実施に加え、出前講座の実施等を通じ、新たな連携に取り組みました。	4	政策研修など市政との連携については例年どおり進めることができました。 高大連携について、学生が主体となって地域と連携する取組については、学生の地域清掃活動への参加や、他大学との連携による中心市街地の空き店舗を利用したカフェの運営など、従来からの取組の継続に加え、津市消防団学生機能別団の活動などの取組を進めることができました。	拡充・充実	産学連携や高大連携、学生が主体となって地域と連携する取組や市民向け公開講座については、継続して実施したことにより安定して実施できました。 従来からの取組に加え、さらなる連携事業への取組を進めるとともに、学生・教職員の連携をより密にし、全学的な取組を一層推進します。
大学総務課	地域問題研究事業	三重短期大学地域問題研究所は、地域問題に関する学術的な研究機関として活動してきた「地域問題総合調査研究室」を平成20年4月に改組したもので、本学の研究活動の一つの拠点です。 ここの地域問題の研究は、大学側（教員）から見れば研究活動の充実、地域社会からみれば課題の解決等につながるものです。	研究テーマ数	本来なら、研究成果に対する地域社会の満足度等の指標設定をしたいところですが、成果公表が年報の発行等に限られており、当面、研究件数を指標とします。	20件	14件		研究件数は14件で、前年度と同数にとどまりました。 引き続き、研究件数を増すとともに研究内容の充実にも努めます。	3	本事業により実施した研究が自治体との共同研究事業になるなど、研究成果が深化及び発展する事例も見られます。 地域問題の掘り起こしを行うなど、研究件数の増加及び研究テーマの範囲拡大を図りつつ、研究成果のより効果的な活用方法についても検討を行う必要があります。	現状維持	地域問題の研究は、公立短期大学に求められる使命でもあり、研究件数の増もさることながら地元・地域に密着した研究内容の充実について、更に積極的に取り組んでいく必要があります。

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成28年度）						事業の評価		所管課長等による評価	
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成29年度以降の事業の方向性	所見
大学総務課	教育研究関係事業	教員（専任教員）の図書費や学術研究旅費の支出、また実験実習用機器、教育用パソコン周辺機器等の配置により三重短期大学教員の教育研究活動を充実させ、学生への教育レベルの向上を図るとともに積極的な地域住民への教育研究の成果還元を図ります。	学生の進学・就職率	教育研究の教育の成果として、学生の就職率（進学・就職者数／卒業（既就者等を除く）者数）を指標とします。	90%	95%		就職内定率が前年度を上回り、また、編入学合格者数も向上していることから、就職支援強化の成果が表れています。引き続き、学生への支援に取り組みます。	4	大学の教育研究に必要な予算を措置しており、教育研究面からは評価に値します。 平成28年度も就職希望者、編入学希望者とも卒業後の進路決定状況が好調でしたので教育研究の成果が反映されたものと考えています。今後もさらなる向上を図ります。 また、平成29年度に予定している外部評価に向け、教育研究成果の評価方法等について検討していく必要があります。	現状維持	三重短期大学の教育研究活動を充実させるため必要な事業であり、教育研究活動の成果は学生に還元されるものであるため、その教育研究成果に係る評価の実施に向けた検討を行う必要があります。
大学総務課	短期大学施設維持補修事業	三重短期大学の校舎や体育館等の施設は老朽化が進んでおり、安全・安心かつ快適な学生生活を確保した適切な大学運営を行うため、故障箇所等の維持修繕を行います。	施設の維持管理	安全・安心な学生生活を確保するため、施設の適正な維持管理を指標とします。			故障箇所の速やかな改善と適切な維持管理を行います。	空調設備の改修、電話交換機を購入しました。その他、緊急を要する修繕について、その都度対応しました。	3	施設の老朽化に伴い、年々維持修繕の箇所や執行額の拡大は避けられない状況です。 施設の維持・管理を効率的に行っていくために、次年度より長期計画の策定に向けた取組に着手します。	拡充・充実	施設の老朽化が進む中、今後さらに故障箇所が増加することは必至です。 応急的、対処的な改修から、大規模、抜本的な改修も踏まえた、長期的な施設管理計画の策定に向けた取組を進めます。